◆　目黒区　◆

中小企業の景況

平成 26 年度第 1･四半期
（平成 26 年 4～6 月）

目 黒 区　産 業 経 済 部　産 業 経 済 ・ 消 費 生 活 課

目　　次

１．都内中小企業の景況　1
２．目黒区内中小企業の景況（平成 26 年 4～6 月期）　2
　（１）今期の特徴点　2
　（２）今期の景況と来期の見通し　5
　　製造業　5
　　卸売業　9
　　小売業　13
　　サービス業　16
　　建設業　19
　（３）調査員のコメント　22
３．日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（平成 26 年 6 月）　25
４．特別調査「中小企業の IT（情報技術）活用」について　28
５．中小企業景況調査　比較表・転記表　30

調 査 の 概 要

１．調査時期　　平成 26 年 4 月～6 月期（四半期毎実施）

２．調査方法　　面接聴取調査

３．調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製造業	90	89
卸売業	25	25
小売業	52	50
サービス業	60	59
建設業	41	41
合計	268	264

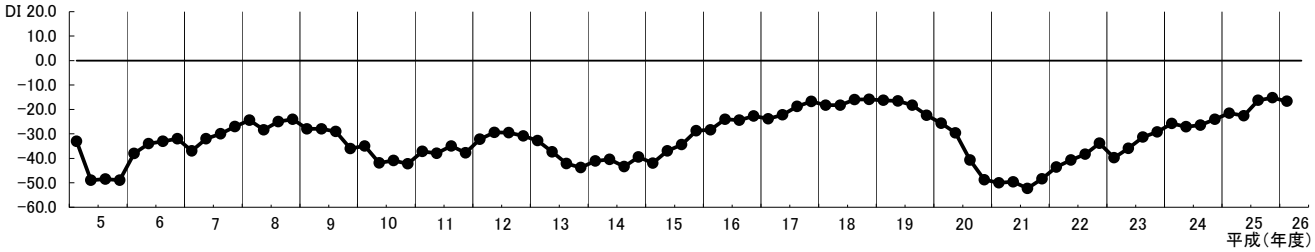
調査実施機関　一般社団法人東京都信用金庫協会

分析実施機関　株式会社帝国データバンク

１．都内中小企業の景況（平成 26 年 4～6 月期）

（社団法人　東京都信用金庫協会調べ）

業況の低下、予想より小規模
～来期は全業種で改善傾向を予想～



業況判断 DI（季節調整済、「良い」企業割合－「悪い」企業割合）は－16.6（前期は－15.2）と前期に比べ 1.4 ポイント悪化した。業種別に見ると、不動産業でやや明るさが見え、卸売業、サービス業で若干厳しさを増し、建設業でわずかに好調感が縮小した。

来期は製造業、卸売業、小売業、サービス業で悪化幅が縮小すると予想している。

	前　期	今　期	増　減	来期予想	今期との増減
製　造　業	△ 16.8	△ 16.8	0.0	△ 15.3	1.5
卸　売　業	△ 12.9	△ 17.9	△ 5.0	△ 12.6	5.3
小　売　業	△ 30.0	△ 30.9	△ 0.9	△ 28.6	2.3
サービス業	△ 13.3	△ 16.5	△ 3.2	△ 13.2	3.3
建　設　業	8.7	6.8	△ 1.9	6.8	0.0
不動産業	△ 5.0	△ 3.2	1.8	△ 2.6	0.6
総　　合	△ 15.2	△ 16.6	△ 1.4	△ 14.4	2.2

＜製造業＞

業況は前期同様の厳しさが続いている。売上額・受注残は前期並の減少が続き、収益はわずかに減少を強めた。価格面では、販売価格は前期同様の低下基調で推移し、原材料価格は前期並の上昇が続いている。

業種別に見ると、「化学工業」は非常に大きく好調に転じた。「輸送用機械」は大幅に改善し、「一般機械」「精密機械」「ゴム製品」は多少厳しさが和らいだ。一方、「建設用金属」「木材・家具」はかなり低調感を強め、「電気機械」「プラスチック」「食料品」「プレス・メッキ」「金属製品」はやや業況感が落込んだ。

来期の業況は水面下ながら悪化幅が縮小すると予想している。売上額・収益は減少に歯止めがかかり、受注残は今期同様の減少幅で推移するものとみている。

＜卸売業＞

業況は、やや低調感を強めた。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が若干拡大した。価格面では、販売価格はわずかに上昇傾向を強め、仕入価格は幾分上昇幅が縮小した。

業種別に見ると、水面下ながら「食料品・飲食料品」がやや上向いた。一方、「建築材料」はわずかに悪化幅が拡大し、「機械器具」「繊維・衣服」は大幅に厳しさを増し、「鉱物・金属材料」は非常に悪化が強まった。

来期の業況は、水面下ながら持ち直すと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するものとみている。

＜小売業＞

業況は、前期並の悪化幅で推移した。売上額・収益はともにやや減少幅・減益幅が拡大した。価格面では、販売価格は大きく好転し、仕入価格はかなり上昇傾向を強めた。資金繰り・借入難易度は前期並の苦しさで推移した。

業種別に見ると、「飲食店」が水面下ながらわずかに持ち直した。一方、「ガソリンスタンド・燃料」「書籍・文房具」は幾分低迷し、「自転車・自動車」「家電・家庭用機械」「家具・建具・じゅう器」「カメラ、時計・眼鏡」はかなり厳しさを増した。

来期の業況は、悪化幅が縮小すると予想している。売上額・収益はともに持ち直すものとみている。

＜サービス業＞

業況はやや厳しさを増した。売上額、収益はわずかに減少幅・減益幅が拡大した。価格面では、料金価格は多少好転し、材料価格は若干上昇傾向を強めた。

業種別に見ると、「情報サービス・調査・広告」は大きく悪化に転じ、「洗濯・理容・美容」は多少深刻さを増し、「自動車整備・駐車場」は幾分厳しさが和らいだ。

来期の業況は水面下ながら上向くと予想している。売上額・収益はともに減少幅・減益幅が縮小するとみている。

＜建設業＞

業況はわずかに好調感が縮小した。売上額・受注残は若干増加傾向が一服し、施工高はかなり増加幅が縮小した。収益はやや伸び悩んだ。価格面では、請負価格、材料価格は前期並の上昇が続いた。

業種別に見ると、「職別工事」は前期並の良好感が続き、「総合工事」はやや好調感が後退し、「設備工事」は幾分上向いた。

来期の業況は今期並の良好感が続くと予想している。売上額・受注残・施工高は伸び悩み、収益は今期同様の水準で推移するとみている。

＜不動産業＞

業況は水面下ながらわずかに改善した。売上額・収益ともに減少幅・減益幅が幾分縮小した。価格面では、販売価格は変動なく推移し、仕入価格は上昇がやや強まった。

業種別に見ると、「建売・土地売買」は好調感が幾分後退した。「不動産代理・仲介」は水面下ながらかなり改善した。

来期の業況は、今期同様変化なく推移すると予想している。売上額は好転し、収益は今期同様の水準で推移するものとみている。

[注]

○D.I（Diffusion Index の略）

D.I（ディーアイ）は増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「下降」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○（季調済）D.I

季調済とは、各期ごとに季節的な変動を繰り返すD.Iを過去５年間まで遡って季節的な変動を除去して加工したD.I値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種（例えば小売業）ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方向をみる方法です。